

天声人語

1984年のロス五輪で柔道の山下泰裕は、肉離れした右足を引きずりながら、決勝に臨んだ。対戦したエジプトのラシュワンは、こんな作戦を授けられていたという。最初の1分間は技をかけずに山下を焦らせる。そして右足を攻める▼しかし試合が始まると、彼は作戦を無視した。真っ向から勝負を挑み、山下に敗れた。国際フェアプレー賞を受けたラシュワンは後に語っている。「尊敬する山下の弱点を攻めるのはいやだった」▼政治にフェアプレーを求めるのは、お門違いかもしれない。それにしてもこれが単に、相手が弱っている時を選んでの攻めであるなら、しらけてしまふ。安倍晋三首相が衆院を解散する検討に入つたそうだ▼28日に始まる臨時国会の冒頭に踏み切る可能性があるというから、ずいぶん急な話だ。野党第1党の民進党が離党者の続出で低迷し、今なら勝てると踏んだか。臨時国会が吹き飛べば加計学園や森友学園の問題も追及されず一石二鳥なのだろう▼かつて首相の吉田茂は野党議員との質疑で「バカヤロー」と口走った。国会軽視だと責められた末に衆院を解散し、「バカヤロー解散」と呼ばれた。このまま大義なき解散を迎えるなら、今回は有権者がばかにされたことになるか▼怒りを感じたとしても、さて受け皿はとなると寒々とした風景がある。とくに民進党の体たらくは、肉離れなどで済む話ではない。与党は、不戦勝を狙うような気持ちで総選挙に臨むのだろうか。民主主義の荒野である。

2017・9・18